

---

# 魔改造なトレーナーの我道（ゴーイングマイウェイ）

sato

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔改造なトレーナーの我道ゴインゲンマイウエイ

### 【Nコード】

N7181W

### 【作者名】

s a t o

### 【あらすじ】

この作品は、作者の現実逃避と妄想で出来ています。原作は基本、放置と無視の方向で、チート、擬人化、御都合主義、シリアスブレイク？、余裕があればハーレム？になる予定です。（予定は未定）  
亀更新、強さ基準の崩壊、ぶっ飛んだ設定、以上が許せる方はご覧  
ください。

0・ココハドコ？ まさかのオワタフラグ発動！！（前書き）

やっっちゃった

別作品で、書き直しとシリアスの補充と設定の練り直しと色々な物が溜まって気分転換と現実逃避で書いてしまった。

ぶっちゃけ、ネタがこっちの方が結構充実しそうだ……

こんな駄文ですがどうぞ……

0・ココハドコ？ まさかのオワタフラグ発動！！

＼（。ロ＼）ココハ誰？ （ノロ。）ノアタシハ何処？

どうみても、よくあるテンプレの舞台となりそうな白い空間に俺は立っていた。

あるえー？

落ち着け……………あれは確か……………

- 数時間前 -

「さあ！学校も終わったし、楽しいポケモンタイムだ！！！」

下校後、直で家に帰り玄関を開けたらそこは空中でした……………  
は？

「……………なんてテンプレ……………！！！」

それが最後の記憶であった……………

- 現在 -

思い出したが、現状は変わらなかった。orz

「おー。やっとみつけたぞい」

知らない誰かの声の方に視線を向けると老人がこちらに向かってい

た。

「どちらまで？」

「わしは、ココの最高責任者の主神じゃ」

「で、ココは天国でもなく地獄でもない、空間の裂け目といわれる場所じゃ」

「それで、どうして神様が自分と対面しているのですか？」

「うむ。実は君がココに来た原因は、わしの一番小さい娘のミスで空間の裂け目に巻き込まれたのが原因なのじゃ。しかも、厄介な事に現実世界では、君は死亡ということになってしまっているのじゃ。」

「……色々言いたい事は山ほどありますが、これから自分はそのすればいいのですか？」

「うむ。今回は完全にこちらに非があるので、チートや行く世界を本人に選ばせる事にしたのじゃ。ただし、行く世界等も含めて合計で7つまでにしてくれ。」

キターーーチート転生!!!! ウォー!!! さっきまで怒りしかなかったが、こんなにくれるのなら、そんな些細な事は水に流せる(喜)

「じゃあ。欲しい能力だけ……」

1・トリコの世界に行きたい。(時空列は、原作前後くらい)

2・料理人としての最高の才能と食運がほしい。(できるなら、基本的な調理道具も付けてほしい)

3・グルメ細胞G(グレート版の略)がほしい。(具体的には旨い物を食べると、人間の寿命以外の身体能力や頭脳、体力に限界が無くなっていく仕様にしてほしい。)

4・ゲートを作成できるようにしてほしい。(違う世界同士を結ぶ大きなゲートとそれぞれの世界に小さなゲートを作れるようにしてほしい。) 【もちろん自分専用の仕様で】

5・もう一つ行ける世界は、ポケモンの世界にしてほしい。(コマアニメの原作開始ぐらいで)

6・仲良くなった動植物、(ポケモンなども含む)と自由に会話できる能力

7・出会ったポケモンの才能と限界値を見極められ、最高値まで上げられる能力。

以上が俺の願い事だ!!!」

「あいわかった。しかし、4は自分専用だと後々困る事になるじやろうから、グルメ細胞Gを持つ者専用にしておくぞい。それと願い事の中に、容姿や性別に関して無かったがこれはどうするのじゃ?」

「容姿は元々、平均のちょい上だからこれでいいし、性別も男で問題ない。」

「そうか・・・ではトリコの世界に送るが、無一文では成長に支障

が出ると思うから、1年間はノーリスクで使用無制限のブラックカードを授けよう。1年後には消えてなくなるから、気をつけるのじやよ。」

マジか！！？ それはすごい助かる！！ 初めはバイト三昧を覚悟していたからな。

「では、良い来世を。グッドラック！！」

最後まで、いい感じの神様だったな……。 (汗)  
新たな人生に心躍らせながら、意識を失った。

- 主神サイド -

「ふう。以外に欲の少ない人間じゃったな……。今の若い人間は、アニメの様な容姿にしろとか、無限の剣製やゲートオブバビロンなどを要求してくるのに。」

最近の若いやつらは、努力というものを嫌い、安易にバグ能力を手に入れようとするから気に入らん。

さっきのやつは、それほど無理ではないし、自分で努力する姿勢も見えたので全部叶えてやったが、あまりにも少なかったからこちらで勝手につけたそう。

ふむ。まずは、グルメ細胞をGの他にEXも入れてやろう。

EXはGと性能は変わらんが、違う点としては他人に移植できる事、移植する方法が血液か精液のどちらかを取り込むこと（爆）、人間以外に与えると擬人化出来るようになる。（具体例としては、血液が仮契約、精液が本契約の様なもの（核爆））

次は容姿は変えないで、異性への高感度が結構高い設定にしておこう。 ついでに同性の高感度も悪くならない設定にしておこう。

あやつの考えたグルメ細胞は凄い興味深いので、あやつを新しい種族の始祖にして、子供がたくさんできる様、絶倫の限界突破と体力の受け渡しと女殺しの器を与えよう。（爆）

擬人化した存在で元々子供を作れない種族でも、EXの影響で奴の寿命の間は子供ができる身体に作り替えられる仕様にしておこう（核爆）

「これくらいあれば、充分じゃろう。さて、末の娘の説教にわたしも参加するでしょう。」

直後、天界の方から幼女の鳴き声が聞こえた……（合掌）

## 0・ココハドコ？ まさかのオワタフラグ発動！！（後書き）

こんな話です。

初めはトリコの世界で強さと料理の腕を磨いてから、ポケモンに行く予定です。

メインはあくまでもポケモンです。

トリコはポケモンが始まると、食材調達か、仲間の強化での出番が無くなると思いますので、トリコメインを期待されている方は、つまらないと思います。  
すいません。

最後に

こんな駄文を最後まで見て下さった方、有難うございます。

## 1・状況確認（前書き）

連続投稿に挑戦しました。

マジしんどいです。

毎日投稿している方を尊敬します。

## 1・状況確認

- 主人公サイド -

目が覚めた。辺りを見ると、町はずれの丘に寝ていたらしい。とりあえず、状況を再確認しよう。

俺の名前は、森谷<sup>もじや</sup> 陸斗<sup>りくと</sup>年は16歳、性別は男  
瘦形中肉、黒髪黒目、高校生の平均的な身長と体重、どこにでもいるベストオブ普通である。

・ 確か神にあつて、転生の特典でトリコの世界に送ってもらったと・  
だとなれば、ココはトリコの世界のドコカが

とりあえず、状況を把握したので街に行こうとしたら、手元に見慣れない携帯電話が落ちていた。

メール着信があつたので、開いて見ると神様からのメールだった（汗）

俺の願いが他の転生者とは違い興味深い能力だった為、これから互いに連絡が取れる様手紙では無く携帯にしたそうだ（汗）今、これで連絡がとれる対象はさつきあつた主神のゼウスと、その妻のヘラスさんの2人らしい。（大汗）

気を取り直しメールを読んで見ると、ココはやはりトリコの世界で地理的には、目の前の街に原作の【ホテルグルメ】や【グルメガーデン】があるそうだ。

そして、最後に神様は願い事以外に余計な物までくれたそうだ。

まずは、グルメ細胞EX

他人に移植できる事、移植する方法が血液か精液のどちらかを取り込むこと、人間以外に与えると擬人化出来るようになる。(具体例としては、血液が仮契約、精液が本契約の様なもの)

「(。)。」

あのジジイは俺を何だと思っているのだろうか(汗)

次に異性への高感度が結構高い設定で同性の高感度も悪くならないらしい。

自分は、新しい種族(新人類?)の始祖になり、子作りがスムーズになる様、絶倫の限界突破と体力の受け渡しと女殺しの器を付け加えやがった。(怒)

擬人化した存在で元々子供を作れない種族でも、EXの影響で奴の寿命の間は子供ができる身体に作り替えられる仕様にしたらしい。(どうみても、ポケモンの世界で伝説に使えというフラグですね。わかります。)

「(。)。」

あの駄目神は俺に何をやらせようとしているのだろうか(怒)

・・・確認したら確かに、デカクナッテイタ(大汗) 怖いので性能まで確認してません。orz

幸いな事に、性欲のON/OFFが出来る様なのでこれは封印しようとして心に誓った(滝汗)

気を取り直して、街に行こう。

決してメールの内容からの現実逃避ではない。

腹も減ってきているし、自分の食事の量も確認しておこう。（原作のトリコ並みの食事量だと洒落にならんからな）

携帯をしまい、胸ポケットに例のブラックカードがある事を確認し、街へと歩き出した。

初めての食材と味に心躍らせながら。

## 1・状況確認（後書き）

駄文です。短いです。

矛盾や誤字があれば報告してください。

ここまで読んで下さって、有難うございます。

2・3年後・・・（前書き）

正直、トリコ編では、ヒロイン候補は出さない予定でしたが感想でリクエスト？されたので、書き直して付け加えました。

そしたら、収集が付かなくなった orz

なせ、こうなったし・・・

では、どござー！ー！

2・3年後・・・

- リクトサイド -

ココに転生してから3年、俺は今・・・

ガシャン トントン カシャカシャ

「サラダOKです。」 「ムニエルあがりました。」 「肉料理出来ました。」

調理室という名の戦場に立っている。

ここにきて、適当にレストランに入り料理を食べてみたが、あまりの美味しさに感動し、安心してしまったのを今でも鮮明に覚えている。

捕獲レベルは全部2以下のものであったが、今まで食べた事が無い味に声が出なかった。

そして、調理の仕方も見たことが無くそれにも驚いたので、美食屋の修業よりも先に

料理人としての修業から手をつけることにした。

色々あり過ぎたので、細かいところは省くが、今はとある5ツ星レストランで働いている。

ちなみに腕の方は、3ツ星シェフとして働けるほどになり、この店の料理長補佐という役職についているくらいに腕をあげられた。

身体能力は11カ月までは、緩やかに鍛えるしかなかったが、頭脳

のほうが冴えわたり、某竜球に出てきたポイ イカプセルと重力制御装置を作り出せる位の技術者になれたので、例のブラックグルメクレジットを使い、最新の巨大型グルメケースやテイクアウト用グルメケース数個、其の他各種調理道具に小さなレストランが開ける程度の一軒家を買っちゃった

さすがに買えずで、駄目神から抗議という名の愚痴の電話を3時間くらいしましたorz

それはともかく、テイクアウト用グルメケース、一部の最低限の調理道具を除いてすべて一軒家に納めて家の方は、ソーラパネル完備のオール電化に改造してカプセルに収めた。

現在持っているカプセルは、家、ケース2個、調理道具、非常食、水100リットル5個の計10個を保管している。

最初の1年目はこんな感じで終わり、グルメクレジットは予定道理消えて無くなった。

2〜3年間は、初めに降り立った丘の上にカプセルの家を置いて、そこで通勤兼修業を行っていた。(1年目は職場の寮に住んでいた) 休日は、料理の腕上げと修業込みでハントに出かけた。一応捕獲レベル3位までは、余裕で狩れる力を身に付けれた。

3年間を振り返ると大体こんな感じである。あと変わった事といえば……

「有難うございました!!」

ガヤガヤ ワイワイ ザワザワ

「今日も一日お疲れさまでした。明日は定休日ですので、各自ゆっ

くり休んでください。」

「お疲れー」 「さあ、帰りましょう」 「明日は、なにする？」

「リクト君、これからみんなで飲みに行くけど一緒に行かない？」

その声を掛けてきたのは、このレストランの料理長である凍華<sup>トウカ</sup>さんである。

実はこのレストランは男女比率が1：9の割合で、質の高い料理、華のある職場、高収入で有名で、連日約3ヶタ近い見習い料理人候補がくるそうだ。

しかし、凄まじいまでの修業の厳しさ、見習い時の低収入、規律の厳しさなどで、9・9割が1カ月もたずにやめていく有様である。ココの男は皆、仕入れ業者関係者で男の料理人は俺唯一人である。あとのオーナー、料理人、給仕がすべて若くて美人な女性で構成されている為、女性の場合は特に問題は無いが、男性の場合契約書を書くことが義務付けられ、3年更新でそれまでの職務態度、出勤率、人間性などを審査され一つでもチェックがあると次の更新ができないそうだ。

この契約書は、仕入れ業者も同様の様で若い男性はほぼ落とされ、熟年の既婚者がほぼ残るらしい。

そんな中で厳しい修行にも耐え、次の更新もほぼ確定と言われている俺に周囲の女性からのアプローチが半端ないことになっている。ぶっちゃけ、出会いが少ないらしく同年代の男性に飢えているそうだ（汗）

ちなみに現在俺に熱烈にアプローチを仕掛けているのが、さっき声

を掛けてきた料理長のトウカさん。黒髪、巨乳（F）、八キ八キO系美女。

トウカさんの妹で、俺と同じ料理長補佐兼3ツ星シェフである秋葉<sup>アキハ</sup>さん。黒髪、巨乳（E）、深窓のお嬢様系美女。

去年まで同じ料理人で、今年新たなオーナーに抜擢された神無<sup>カンナ</sup>さん。朱髪、巨乳（G）、小悪魔系美女。

給仕長を務め、スタッフの中で最年長（ただし20代後半）である永久<sup>トコユキ</sup>子さん。燈髪、爆乳（I）、物腰が柔らかい大和撫子系美女。

4人とも優秀かつ美人で、お客だけでなく従業員からも人気がある女性達である。

正直俺じゃなくても相手に困らない感じであるが、優秀すぎる為縁が無いらしい。

「すみません。片付けがあるので行けないです。」

「……………ねえ。本当に考え直して貰えないのかな？」

「すみません。」

自分の契約はあと2日で切れるので、このまま店を辞めるつもりでいる。

辞めた後は、表向きには自分の店を開く事になっているが、実際は美食屋に専念するために引越そうと考えているののだが、さきほど

の4人と全従業員や前オーナー達から猛反対を受けていて、どうにか契約更新してくれないかと頼まれている。

なかなか折れない自分に対して、新しい経営者になって全従業員を貴方のハーレムにしてもいいから残って下さいとも言われたが、丁重に断った(大汗)

しかもその提案が出た時、誰一人として顔を紅くはしても、否定の意見が出なかったのが一番恐ろしい。むしろ、大歓声が起きていた(滝汗)

他の人たちは非常に残念そうに諦めがついた様であるが、さっき紹介した4人は諦めきれないのか説得を続けている。色々食事や飲みなどに誘ってくれているが、俺の第六感が誘いに乗ると貞操と自由への妨げになると、訴え続けているので怖くて行くに行けないでいる。(ガクガクブルブル)

「……わかった。でも、明後日の臨時休業の貴方の送別会には必ず出席して頂戴ね?」

「もちろんです。最後に皆さんにあいさつをするつもりでしたから」

なんと明後日は普通に営業だったが、自分の為に一日貸切で送別会を開いてくれるらしい。

準備があるので夕方に来店して欲しいとの事で、積もる話もあるしいい機会なので有難く参加することにした。さすがにあの4人も大勢の同僚の前では自重するだろうし……。

最後の挨拶の文章を考えつつ、どんな送別会になるのか心踊らせながら帰宅した。

- リクトサイド O U T -

- トウカサイド -

私は、いや私達は一人の男性に恋をしている。

3ツ星シェフの腕を持ち、料理長補佐の地位もあるリクト君にだ。

彼は厳しさでほぼ9割は落ちる修業に耐え、人間性、仕事への情熱、勤勉さ、誠実な性格など今まで居なかつた男性である。当然皆オトコ日照りな生活であるし、性欲諸々溜まっているので潤いになると期待したのだが、あまりに身持ちが堅かつた。

誘いや誘惑の類は、凄まじいまでの感ですべて回避する危機管理能力は脅威に値する。

契約更新後、誰が落とせるかを考えていた矢先にココを辞めると聞いた時には、皆が絶望に包まれた。

必死にお願いしても意見が変わらなかつたので、辞めることは承知したが最後に送別会に参加して欲しいとお願いすると、快くOKしてくれた。

実はこの送別会は、前半は本当に送別会にするが、後半は告白大会兼大人の階段への道作りを予定している。というか、それが本命である。

繋ぎ留める事が出来ないと悟つたので、せめて思い出ししてもらおう為に全従業員とオーナー、経営陣総人数50名の一代企画だ。

恥ずかしい事に、私達も含め（初代のメンバーでも最高年齢は32

歳）皆まだである。

なので、媚薬、性欲の付く食材の使用、服装や内装の再点検など準備に細心の注意を払っている。

「さあ、明後日は待ちに待った送別会という名の告白大会です。明日は各自、準備と身体のケアに専念して明後日に備えて下さい。」

そして解散になった。

明日は、エステや身体の疲労取りに専念しよう。

……リクト君。貴方は私達の希望。絶対にニガサナイカラ。  
……フフフフ。

- サイド O U T -

2・3年後・・・（後書き）

やっちゃった

反省の後悔もしたが、もう治す気力がありません。  
これで強引にすすめよう。

最後なんかヤンデレ見たくなってしまった・・・。

どうしてこうなった・・・orz

こんな駄文を読んで下さった方は、有難うございます。  
次も期待は欠片もしないで、気長にお待ちください。

閑話01 貞操終了のおしらせ(前書き)

勢いで書いてしまった。

一応15禁に留めたつもりです。

そう言った表現が好まない方は、次の話をお待ちください。

閑話01 貞操終了のおしらせ

警告！！ 本編は番外編です。

別に見なくても話は繋がりますし、キワドイ表現がありますので  
気に障る方は、すみやかにお戻りください。

それでもかまわず、駄文を読まれる方はどうぞ……………

- リクト サイド -

……………orz

俺は今、激しい後悔と絶望感と凄まじい充実感に包まれている。

「大丈夫？ 具合悪いの？」

トウカさんとアキ八さんがこちらを覗き込むように上目遣いをする。俺を気遣いつつも、甘えるような、誘うような、欲情に染まりきった視線だ。

しかも一糸纏わない状態である。

一言で言つと『エロイ』

簡潔に結論から言おう。

一言で言つと、ハメられました。最終的にはハメ倒しました。

送別会は、全従業員総意の畏でした（泣）

初めのうちは、皆から別れの言葉を交わし今後の事についての質問に答えていたのだが、料理と飲み物が全員に行き渡りカンパイをした辺りから、様子が変貌した。

この世界に転生し、駄目神に魔改造された我が愚息が、ON/OFF機能の制御が外れ収まりが利かなくなった。あわててテーブルに用意されていたイスに座った瞬間、胴体とイスをベルトで固定された。

座ったイスは、この店の中で一番重量感と安定感があるイスである。と気づいた瞬間、周りの女性達が服を脱ぎ始め半裸になった処で畏である事を嫌でも悟りました。（大泣）

いよいよお別れの時が来たのか、サラバ俺の貞操と自由。

そしてサラバ俺の愚息よ、据え膳ムスコという…お前専用の鞄パートナーが待ち受けている…。

現実逃避している間にも、事態は進んでいく……。

【ここからは、音声のみでお楽しみください。】

「服を脱がせてあげて」「わあ。胸板嬉しい……」  
「……はう。大きい……」

「最後の砦が引つ掻かているから、慎重にね……」  
「……(コクコク)……」

「私達とキスしましょう。」「腕貰い。さあ、揉みまくってノノ」「男の人も胸感じるのかな?」

「頭と胸は私達2人で、下はあの娘達が担当スルカラ……」  
「スゴク、イイニオイ……」

「私達は順番まで、お互いの身体の感度を高めましょう」「あ、プルプル震えだした」

「……すつつごく濃いのでたね……」  
「……匂いがキツイはずなのに、甘く感じる……」

「さあ。私達と合体しましょう……」  
「サポートはまかせて」

「……痛っ。奥まで入った……」  
「……すごく激しい……」  
「あ……!」「ナカで出てる……」

……以下省略

【音声終了】

全員中に出した。間違いなく例のグルメ細胞の影響が出ているであらう。

一回ずつでなく、数回出している上にヤルだびに相手の肌のツヤと中の感度が上昇していった。

こっちは絶倫の限界突破だし、相手も体力回復されているので翌朝までノンストップであった

「ぼんぼん、さすさすしてあげよっか？」

「イイコイイコしてあげる。」

彼女達はそう言っつて、上と下をそれぞれ啜える。

「ちょ、ちょっと・・・そこお腹じゃありませんッ」

「あは カッチカチ お姉さんが解してあげるね？」

パクリ モゴモゴ ハムハム

「あーッ！ ずるい！ 私もしますう！」

カナナがそう言っつて反対側から顔を寄せる。

「ちよっ カナナまで！」

三人の舌とか口とか手でねっとりと攻撃された。

すでに3ヶタ近くも放出したのに、一向に止まる気配が無い。むしろドンドンとヒートアップしてるような…。

「んくツ・・・もうダメだつて皆ぁ・・・あッ・・・もう限界!!!」

「頼む! このままじゃ皆とまた最後まで止まらなくなる!」  
俺はは切羽詰った声でそう言った。

「あッ! そ、それはいけませんね!」

ようやく僕の意図を察してくれたのか、トワコさんが立ち上がる。

最後までする事になったら、何時間もの行為に及ぶ事になる。  
今日は通常の営業のはずだ・・・このままでは駄目すぎる。

「貴方達良い加減にしなさい!? リクト君の気持ちも考えなさい  
!」

「トワコさん!」

やっぱり、トワコさんが一番の常識人だった!  
腰に手をあて、頬を膨らませて怒った。

「いくら、連休だからといってもこれでは墮落します。一度身体を  
洗って気持ちをリセットしなさい。  
他の子達も起こさないといけないのだから。」

『『・・・はい。』』

ん? 今、聞き捨てならない事を聞いた様な・・・

「あの? 連休って? 今日は営業日では?」

「ああ。そういえば伝えていませんでしたね。」  
「実は、貴方がこんなに絶倫だったとは知らなかったの、お店を表向きには社員旅行として一週間臨時休業にしています。本来であれば、一週間かけて全員のはじめてを貰って戴く予定でしたが、一日で達成するなんて・・・素敵です／＼／＼／」

初めから、全員の経験させる気でしたか（泣）  
もう乾いた笑いしかでません

「さあ。皆を大浴場に運びましょう。」  
トワコさんの掛け声で、お店から隣の女子寮へと移動する。

このレストランは、ほぼ女性のみなのでお店の隣に大きな屋敷とながっていてそこが女子寮の役割を果たしている。門や玄関のカギはDNA鑑定付き指紋読み取り機であるので、登録者以外の侵入はほぼ不可能である。（例外は、誘われ一緒に潜ることである）

これから俺は、一週間女子寮で爛れた生活を送るらしい。

・・・もつ色々諦めよう。

・・・激流に身を任せよう or z

- リクト サイド - 強制終了

閑話01 貞操終了のおしらせ(後書き)

反省も後悔もした。

もう何も言う事はありません。

石だけは、投げないでください。

### 3・自重しない神による神の為の、転生者魔改造計画（前書き）

お待たせしました。

今回もマジで自重してません。

結構ぶつとんでいますので、チートが大好物の人用の仕様になります。

### 3・自重しない神による神の為の、転生者魔改造計画

- リクトサイド -

・・・あの全従業員告白大会という名の、カオス乱交事件から1ヶ月が過ぎた・・・。

俺は以前の一人暮らしではなく、未だに前職のレストランの女子寮で生活している。(強制で)

ナゼコウナッタ。

しかも、週5日は朝、昼、夜とだれかしら2〜3人が張り付いて、新婚のごとくイヤチャ付きや乱交を求められる。

うん。軽く死ねます。(哀)

当初は、二週間に1日の休みであったが、泣いて、土下座して週休2日にして貰った。(大泣)

・・・で現在は、あの駄目神を秘密裏に呼び出し何故こうなったを調べることにした。

原因判明

駄目神の奥さんが、マブラブの「恋愛原子核」を付け啜えたらしい。俺はすぐに本人に電話を変わって貰いどいう事なのか問うと

「なんでそんなものつけたのですか？」

「いやね？ 最近マブラブオルタに嵌ってて、その恋愛原子核を上限を最大まで引き上げて、そのうえで魔改造したものを思いつきで作っちゃったの。」

「オイ」

「だから人間に装備したら、どうなるか見てみたかったの」

「ちょw おまwww」

「ちなみに魔改造して付けた時の効果は、

1 . ある一定の好感度があれば発動する。(全人類を敵に廻さない為)

2 . 発動したら、対象の異性は相手に自分の存在のすべてを捧げるようになる。

3 . 独り占めなどしようとせず、ハーレムを推奨して共有しようとする。

4 . ツンデレやヤンデレの素質を削除して、素直、従順、癒しの素質を無制限に高める。

5 . これを持っていて異性の体液を体内に取り続けていると、その人の趣向や萌え、フェチの身体に作り替える。(要は、巨乳、美乳もおもいのまま)

こんな感じの能力だから、貴方の好きにハーレムを作ってみて?」

会話終了(一方的に電話が切れた)

泣)  
.....所詮駄目神の身内は、やっぱり駄女神であった。(大

しばらくの間、orzで落ち込んでいたのだが駄目神から連絡があり、伝えることがあるから所定の場所へ来てほしいとのことらしい。俺は今日の当番の女の子達にしばらく外出すると連絡し、この埋め合わせは帰宅後にと約束して出かけた。

待ち合わせ場所に着くと、いきなり浮遊感に襲われ落ち着くのを待っている、目の前に例の駄目神を始め数人の男女（おそらく全員神だと思う）が周りを囲っていた。

嫌な予感を感じつつも自己紹介をすると、やはり彼らは神であり俺に能力を与える為に集まってくれたのだという。

普通こういった取り引きには、対価という物が必要なのでは無いのですかと聞いて見ると

「いやいや、そんな細かい事は気にしなくてよいぞ」

「そうよ。貴方は自分の信じた道を貫くだけでいいからね。」

「……………まさかとは思いますが、貴方達も漫画の能力を見て改造をし経過と結果を見てみたいだけで力を与えらるるかじゃ？」

「ギク」

「ドキ」

「ソナコトアルワケナイジャナイデスカ（棒）我々がリクト君で弄……ゴホゴホ 暇つ……ゴホゴホ 君の成長する姿を見たいだけですよ？」

「完全に棒読みのうえ、弄ぶとか暇つぶしなどと言いかけてましたよね？」

「……お願いします。すべてその通りだと認めるので我々の愉しみの為、協力して下さい。（土下座）まったく危険性は無い上にある神の贈り物はハーレムを強化できるので何卒。（超必死）」

「俺としては、無理なく平穩に人生を過ごしたいだけなんだかね」「わかったから、土下座はもうやめてください。見ていて罪悪感がありますから。」

「……おお。神キタコレ」

「神はむしろ、あんたらのほうだろ。」

「そんな些細な事より、転生者改造計画を始めましょう。」

『『『『『おおおおおおおおおおおおおおおおおおー！！！！！！！！！！』』』』』

結果、流されました。

駄目神の仲間なので90%期待してませんでした。他の神たちも威厳や常識が欠落していました。orz

まずはじめは、能力系から説明を貰っています。

自分が彼らから貰う能力は

- 1．東方系の『すべての炎を司る程度の能力』
- 2．性交した相手の能力をコピー、強化、進化させる事が出来る

能力

この2つをくれるらしい。だがどちらもヤバそうな能力である。特に最後。

『すべての炎を司る程度の能力』は

- 1・炎であれば、どんな物でも生み出せれる。(例として、太陽の炎や死を司る黒い炎など)
- 2・相手の攻撃が炎を吐いたり、身体に纏っている攻撃なら無効化できる。(身体に纏っている炎は無効化できるが相手の身体の攻撃は無効化出来ない)
- 3・炎や溶岩を無効化して、炎の海や溶岩の中を移動できる。
- 4・炎を司るからと云って、別に水や氷は弱点にならないし、普通に泳げる。
- 5・3の能力を一時的に仲間や恋人達に掛ける事ができる(効果が切れる30分前に自動で警告通知有)
- 6・5の能力の使用時、仲間が裏切り行為を行った場合自動的に効果が切れる。

マジでチートである。特に3・4・6が

2番目の能力は説明の通りであるが、ぶっちゃけすでにアウトなので断ろうとしたのだが泣き落されました。ロリ巨乳駄女神様で、自分で試しますかと言われたが丁重にお断りした。(嫌な予感がMAXだったガクブルガクブル)

次に従者をくれるらしい。全員女性みたいだ。

自分の髪の毛を彼女らにいれ、俺が主だと認識させているので、いらないと聞くと彼女らは自殺を図ると脅されました。完全に事後承

諾でした。 orz

1人目は、水と大地と草を司る大地創造という能力を持ち、植物や水、大地等と会話ができて自在に操る事が出来る翡翠の髪と瞳を持つアスカという女性である。

2人目は、氷と風と雷を司る大海創造という能力を持ち、津波や氷山、風や雷と会話ができて自在に操る事が出来るサファイアのような髪と瞳を持つカイリという女性である。

3人目は、光と闇と龍を司る天空創造という能力を持ち、光や闇、星や龍と会話ができて天候や昼夜なども含めて自在に操る事が出来る白銀の髪と金色の瞳を持つリュウナという女性である。

3人と俺に絶対服従と忠誠を誓っているらしく、日常のサポート、戦闘の補助、夜の御奉仕まですべてお任せ下さいと豪語された。(大汗)

さっそく絆を深めようと、押し倒されかけたが説き伏せ後日にして貰った。(滝汗)

最後に駄目神が今まで貰った能力と初めに貰った能力の修業の為にモンハンの世界に送るそうだ。

ついでに3人の従者と絆を深めて来いと、強制的に行く事になった。(泣)

どうなることやら不安でしたがないが激流に流されるしかないな。

orz

### 3・自重しない神による神の為の、転生者魔改造計画（後書き）

今回は一時的にモンハンの世界になります。

単発にするか、ある程度行くようにするかは未定です。

ここまで読んで貰って有難う御座います。

0・やっとポケモンの世界に来れた!!! (号泣) (前書き)

ポケモン編、初投稿です。

トリコ編と合わせて投稿していくので、どっちが先に投稿はその時  
しだいですが

トリコ編は、10話位にして、それ以降はポケモンがメインにする  
予定です。

でわどうぞ!!!

## 0・やっとポケモンの世界に来れた！！！（号泣）

- リクトサイド -

トリコの世界でもあまりにも色々あり過ぎたので省略するが、ついに念願であったポケモンの世界にやってこれた。

今回ココにやってきたのは、俺と3人の従者達とトリコの世界で買った家や調理道具、大量の食糧や植物の種などが入っている食糧庫等が入っているポイポイカプセルを持ちこんでいる。

ちなみに買った家は、当初一人で住む為様に一軒家であったが、今は従者や恋人達が住むので百人位は自由に過ごせる様な豪邸に変更している。一軒家はあくまで非常用である。

アスカにココの場所を聞いて見ると、イツシュ地方のカナワタウンの奥地、植物が檻の様に取り囲み草ポケモンと虫ポケモンの楽園となっている場所らしい。

リウナに時間軸を聞いて見ると、アニメのサトシは存在するが、彼がマサラタウンから旅立つ5年前位だという事らしい。

これからの方針としてまずは、ココに住むポケモン達と交流を深めこの地を隔離し、他に類を見ない草と虫の楽園にしよう。原作に関わるのかはその時になってから決める方針で。さあ、ポケモン達に会いに行こう。

- リクトサイド アウト -

御都合主義)

キング・クリムゾン(超・

- ??? ? サイド -

ここ2・3年の間にイッシュ地方全体にある噂が円満している。  
カナワタウンのさらに奥地に、草ポケモンと虫ポケモンの楽園とな  
っている場所があるらしいと。

だが、原生林はまるで迷路のように惑わし、結界でも張っているか  
の様にすぐに入り口へと戻される。  
たとえ奥地にたどり着いても、ゆうに20メートルはある断崖絶壁  
が立ちふさがり、上へと続く道が存在しないので進む事ができない。  
まさに、要塞と化した陸の孤島である。

何故こんな場所に楽園があると言う噂が広まったかと言うと、4年  
前にカナワタウン近くで個人の小型飛行機が行方不明になったこと  
があった。

カナワタウン付近で半年間捜索が行われたが、小型飛行機の機体は  
操縦者の遺体とともに発見されたが、同乗者の男性の行方がわから  
なかった。

生存が絶望的とされていたが、1年後にカナワタウンに元気な姿で生還したのだった。

今までどうやって生活していたのかと質問されると、楽園と呼ばれている場所がありそこは草と虫ポケモンが住みやすい素晴らしい場所であると。

イツシュ地方のポケモンだけではなく、カントー、ジョウト、ホウエン、シンオウなど色々な場所のポケモン達も住みついているらしい。

そこはカナワタウンの奥地の原生林（通称 迷いの密林というらしい）を抜けて、20メートルの断崖絶壁を超えた先にあるので滅多な事では外敵に晒されないらしい。

その地には、ココにしかない珍しい植物が存在し、見たことも無い様な果物や穀物が栽培されていた

等と云う話が出てきたので、マスコミは大いに取り上げ一時的に凄い熱気に包まれたが、生還者が一言

「その土地はある一人の男性が納めています。彼は不思議な力と、素晴らしい力を持つ従者を従え楽園を維持しています。彼は楽園に人が来る事を拒みませんでした。珍しい植物やポケモン達を乱獲したり、あの土地を開発したりしそうな敵意ある人間は、全力を持って排除すると豪語していました。」

「個人の力で群衆を相手にするのは、無理なのでは？」

一人の報道関係者が聴くと、彼は首を振りながら・・・

「彼は炎を自由自在に操り、他の従者達も自然の力を自在に操れます。所詮人間は自然の猛威には勝てませんので、勝率はほぼ絶望的といつていいでしょう。」

「しかも彼らだけでなくあの地はもつと恐ろしい物があります。」  
報道関係者が、恐る恐る内容を聞くと

「あの地に生える珍しい植物達は普段は通常の植物と同様ですが、外敵（おもに稀に紛れ込む鳥ポケモン）が侵入して草ポケモンや虫ポケモン達を襲うと、触手を伸ばし捕食する凶悪な食獣植物になります。」

「一度食獣植物になれば外敵をすべて排除するまでは、虱潰しに探し出し完全排除するまで暴走状態が治まらないそうです。」

「唯一の対象外が、彼らと彼に認められた客人だけだそうです。」

「無論ポケモンだけでなく人間も捕食するので、我々の例外ではありません。」

それまでの熱気が一気に冷え込み、一同が無言状態になった所で彼が、

「彼らがあの地をこう名を付け呼んでいます。」

虫・草ポケモン達には楽園

我々他の生き物にとっては、地獄。通称 ヘルプラント 植物地獄

生還者のこの言葉により新天地への熱気は完全に冷めっ切って、今では密漁者や学者が探すくらいである。

しかし辿り付いた者は、極僅かであり完全な世捨て人か、草・虫・水ケモンを心から愛しているマニアや研究者くらいしかないほど、危険かつ困難な場所である。

自分も実は極僅かの一人であり、これからこの地の守護者に許可と住む場所を提供して貰いに行くところである。

これからの新たな日々、胸をわくわくさせ周囲の反対を押し切り来て良かったと感動をしている。

……おっと。自己紹介がまだだったね。

ぼくの名前はアーティ。

ヒウンタウンジムリーダーで、半年間の休暇を奪い取ったアーティストだよ

- ??? (アーティ) サイドアウト -

0・やっとポケモンの世界に来れた！！！！（号泣）（後書き）

こんな感じです。

植物地獄はトリコから出しました。（バレバレですね）

アーティさんは、速い感じでの出演が決まっていました。  
しばらく原作キャラは彼のみになる予定です。

これからも宜しくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7181w/>

---

魔改造なトレーナーの我道（ゴーイングマイウェイ）

2011年11月8日04時28分発行